

生徒が活動する三光中学校の学校図書

この4月から12学級以上の学校に司書教諭が配置されました。

朝の読書活動が多く、学校で取り組まれています。読み聞かせなどの図書館ボランティアの方の学校における活動も活発になっていると聞きます。しかしながら、「子どもの読書活動の推進に関する法律」はできたものの、その意義に添って子どもたちの読書環境の整備は進んでいるとはいえません。

下毛郡三光中学校の司書として20年以上がんばっておられる岡部廣さんに、学校図書館をどのように運営されているか、書いていただきました。

利用者に期待される学校図書館の運営

三光中学校図書館 司書 岡部 廣

1 はじめに

三光中学校に司書として勤務してから早くも20数年が過ぎようとしています。この間、県下の多くの学校では、学校図書館へ対する理解は年々薄くなる一方で、学校教育においては、学校図書館の仕事は勤務のひとつにしか過ぎませんでした。したがって先生たちの関心もほとんどなく、一部の読書好きな先生や生徒によって辛うじて支えられていたに過ぎません。このような状況の中で三光中学校では、20数年前に統合中学校が発足するにあたり、膨大な図書の整理のために司書がおかれ、それが細々と今まで続いてきました。この間、図書費も徐々に増やされ、98年度からはパソコンも導入されました。

本校では開校当初から司書と図書委員会が中心となって図書館運営を行ってきました。図書委員は単なる司書の助手にとどまらず、当番活動や広報活動を主体的に行い、クラスと図書館とのパイプ役を果たし、選書においても司書を手助けする重要な役割を果たしてきました。

このように本校では、他校の図書館とは少し趣の異なった図書館活動をこの20数年間にわたって繰り広げてきました。

2 三光中学校図書館の概要

図書館は校舎一階中央部に位置しており、利用者にとっては非常に便利な場所にあります。広さは書庫や事務室も含めて2教室分ありますが、蔵書の増加に伴い、非常に手狭になり、利用者で混雑するこ

とも多く、近い将来計画されている大規模改修での移転拡張も考えられています。

蔵書は約1万2千冊に達しており、このうち、文庫本が2千冊、マンガ単行本が約6百冊あり、閲覧室には約8千冊の図書が配架されています。年間、教師用や一般用も含めて約6百冊～8百冊を新規受け入れしており、利用者のリクエストにもほぼ応えることができています。なお、雑誌10数誌と新聞、揭示資料なども受け入れています。

利用状況は年間約8千冊の貸出数があり、マンガが全体の20パーセントを占めています。利用者は一日に40人～80人程度で朝から夕方まで利用されています。教科では美術や家庭科、理科などでよく利用されており、平和学習や公害・環境教育、部活動での利用も活発です。また、朝読書での利用も非常に多いです。

資料の管理や貸出、返却、予約、検索などには98年度よりパソコンを利用しており、誰でもが簡単な操作で貸出や検索ができるようになっています。

3 学校図書館の一年間

本校では年間計画にしたがって、読書指導、利用指導、委員会活動、図書館行事などの活動を繰り広げています。学期ごとに主なものを挙げると一学期は、年間活動計画の作成、新入生へのオリエンテーション、夏休み前の全学年への読書指導や読書感想文コンクールとしおりコンクールの準備、長期休暇前の特別貸出などを行い、夏休みは休暇中の図書館特別開館（15日間程度）と図書委員会研修会の開催、二学期は古本市と本の交換会の開催、本の紹介文コンクール準備、三学期は蔵書点検と図書館文集作り、しおり、紹介文コンクールの表彰、卒業生への読書記録カードの贈呈、年間のまとめと新学期の

準備を行います。このほかにも年間を通しての活動としての広報紙の発行、掲示や展示物の作成、特設書架の設置、朝の読書への取り組み、選書などのほかに毎日の貸出、返却、書架整理、リクエストの受付、利用者へのレファレンスなどの活動を幅広く行っています。この中から特に重要視している図書館の仕事について説明していきたいと思ひます。

a 図書委員会活動

本校の図書委員会は開校当時から熱心に活動に取り組んでおり、中には三年間を通して図書委員として活動する熱心な委員たちもいます。活動は全員で曜日を決めて昼休みと放課後にカウンターでの貸出、返却から書架整理までを取り組む当番活動と、自分の得意なものを生かして余暇時間を使って取り組む広報、展示活動とにわけることができます。とりわけ後者の活動には熱心に取り組む生徒もいて、過去何回にもわたって大分県学校図書館報コンクールにおいて最優秀賞を受賞しています。また、廊下の掲示板や机を使った本の紹介展示は生徒のアイディアと個性とを生かして、横を通る生徒や教師に読書や図書館の大切さを訴えかけるものとなっています。

b 新入生へのオリエンテーション

毎年、4月と5月の2回にわたって行っている

もので、1回目は学校図書館の役割と読書の大切さを中心に、資料の借り方と返却法などをクラスごとに自作のプリントを使って説明しています。また、最後にひとり一冊の貸出を行い中学校での図書館利用法を身につけさせています。2回目は5月に行い、やはり自作の演習問題を使って、実際に図書館にある本を班対抗で探してみるという方法で図書の分類や配架について説明しています。この2回の特設授業でひととおりの図書館の使い方が理解できるようにしています。

c 読書推進コンクール

これは夏休みと冬休みとを利用して本校図書館独自に行っているもので、約15年前からいろいろと方法を変えながら続いています。夏休みはしおりの部のコンクールを行ない、冬休みは本の紹介文の部のコンクールを行っています。しおりの部は、あらかじめ図書館で準備しているしおり作成用紙に、各自パソコンや手書きでしおりの図柄を描くもので、夏休みの課題として全員に描いてもらっています。紹介文の部は、冬休みを利用して全員に図書館にある本の紹介文を200字程度で書いてもらうもので、読書感想文の苦手な生徒でも、これには抵抗なく取り組めるようです。

三光中学校図書館オリエンテーション資料

学校図書館、うまく使えばとっても便利

1 学校図書館ってどんなところ?

①学び、考え、教えるところ (学習の場)
 ②読む、話す、いこうところ (生活の場)
 ③集める、探る、つくること (探求、創造の場)

以上のような役割を果たしているところが学校図書館です。先生や親の話を一方的に聞いて、その通りにする受け身の勉強や生活では学校図書館はあまり必要ではありません。自分で考えたり、発見したりする自主的な生活で初めて学校図書館の資料が必要となってくるのです。中学時代は自立の時です。学校図書館をうまく使って、考える力や創造力を養ってください。

2 三光中の図書館でもこういサービスや備えがある!!

(1)予約制度 (リクエスト制度)
 ・みなさんが読みたいと思う本は、ちゃんよめるようにするための制度です。
 ・予約カード (リクエストカード) に名前と書名を書くだけで読みたい本が借りられます。その本がないときは新しく購入したりよそから借りてきます。

(2)レファレンス (図書館による各種資料検索の援助)
 ・疑問に思ったことやわからないことは、何でも聞いて下さい。ほとんどのことは、本によって調べることができます

(3)読書室は「ひろば」!!
 ・図書館という本がある空間では、いろんな人と集い合うことで、互いに学びあい、高めあうことができます。

3 図書館のきまり

(1)開館日 月曜日～金曜日
 ・みんなが学校にいるときはいつも開いています。
 ・夏休みも15日間ぐらいの開館日があります。冬、春休みも4、5日間ぐらい開いています。

(2)開館時間
 ・7時45分ごろから下校時間(6:30～6:00)まで
 ・先生がいなときは閉まっていることもあります。

(3)貸出冊数
 ・原則として1回に3冊まで 連休が長くときや夏休み前などは冊数が増えます。

(4)貸出期間
 ・2週間 (あまり遅くなく他の人が読めなくて困ります。書戻状をもらう前に早めに返すようにしましょう)

4 本の借り方、返し方

(1)本の借り方

読みたい本を探し、見つかったらその本をカウンターにもつてくる ⇒ カウンター前に置いている自分の個人カードをこごと、図書委員と一緒に返す。 ⇒ スキャナーで自分の個人カードと本のバーコードを読み取ってパソコンに入力してもらう。 ⇒ 本とカードを受け取る。 ⇒ カードはカウンターの上の自分のクラスのカードボックスに返し、本は自分で責任を持って返却まで管理する。

(2)本の返し方

返す本を持ってカウンターの返却箱の中に入れる。 ⇒ 後の処理は図書委員が先生がします。注意 返した後はすぐ本を借りることはできません。早めに返してください。

5 あたりまえだけど、守ってほしいこと

・帳簿の上では一冊以上の本があるというけれど…
 ・一冊の本が書棚に並べられるまでに、たくさん人の手と時間がかかっているのです
 ・もし、なくなったらすぐに報告して下さい。汚したり壊したりしたときも報告を。

・本は、書棚のいちばん手前にそろえて置いてあります。背表紙が見やすいように並べているのです。奥に押し込まないようにして下さい。
 ・いろんな目的の利用があってもいいですが、やっぱり、本を利用する人が優先される図書館でありたいと思います。書架の前での立ち話は避けて下さい。

6 図書館をもっと活用しよう

・こんな本が読みたいとか、探している本が見つからないときや調べている事柄がどんな本で調べてよいか分からぬ時は司書の先生に相談してみよう。新刊書の購入希望もOK!

7 パソコンでこんなこともできるよ

・ある作家の本がこの図書館に何冊あるかを調べたり、この本が図書館にあるのかわからないのを調べたり、自分が今までどんな本を読んだかを調べたりすることもできます。ただし、他人の記録などは調べることはできません。

図書館利用推進コンクール募集要項 案
三光中学校図書部

1. 目的
本や図書館に興味・関心を持ち、読書意欲を高めるために行う

2. 日時
開催期間 1月8日(水) 冬休みを利用して取り組む

3. 方法
・本の紹介文 学校誌への原稿掲載をもらい、それを所定の期日までに提出して下さい

本の紹介文の形 図書館にある本の紹介文を書いて下さい。他の人がその本を読み
たくなるような紹介文をお願いします
150～200字ぐらいでお願いします
しおりの形 夏休みに行ったので冬は行きません。

1、2、3年生ともに本の紹介文の種は全員が提出すること

4. 賞状・賞品
各都とも10人程度に賞状・記念品を出すとともに、紹介文、しおりにとも今年度
発行のBOOK WORLD6号で紹介し、しおりは使っているのがなくなり次第
印刷してみんなに渡ってまいります。今年12月中に印刷します

5. 審査
審査は図書専門部の先生と副読本の先生とで行う。

7. その他
用紙はすべて学校で用意し、生徒に配布します
*本の紹介文例紙を縦向きに生地に配布します。

本の交換会と古本市の取り組みについて
三光中学校図書部

1 今までの取り組み
10月より始めている古本集めでは、生徒や教職員の協力でマンガや文庫本を中心に
約700冊以上の本が集まっており、本番に向けて準備が整いつつあります。

2 前日までの取り組み
・11月19日 クラス実行委員会の開催 古本の収集状況など
・11月20日(朝) 前期・後期図書委員による会場作りと古本運び(放課後)

3 当日の取り組み
a 場所 体育館玄關の職員玄関を中心とし一列
b 時間 合唱コンクール終了後すぐ始める。約30分間で終了予定
c 運営について
・実行係 3年() ()
・会の流れ
番長あいさつ → 交換会の開始 → 古本市の開始 → 終わりのあいさつ
2分 10分 20分 1分
前期部長 実行委員長
*同一図書にほとんど同時に希望者が集中した時はジャンケンで決着をつける

d 交換会について
・交換会の際は交換券を持っていない人のみ参加する。持っていない人は交換会の際は会
場には立ち入りを禁止する。また、交換券以上の本の確保は禁止。
・交換券の裏面以外への譲渡は禁止
・買った交換券は古本市開始後も本人や家裏のみ引き続き使うことができる。
e 古本市について
・誰でも参加できます。原則として一冊10円で販売します。

4 当日の教職員の支障について
a 担当の職員が予選されるため各学年から2名程度の教職員を監視係として会場につ
けて欲しい

5 その他
*事前に注意事項を生徒に徹底させる。

d 本の交換会&古本市

各家庭に眠っている古本のリサイクルと読書意欲の喚起のために毎年秋に行っているもので、今年11月の合唱コンクール後に図書委員会主催として、合唱コンクール参観後の保護者も参加して大々的に行いました。準備は9月体育大会終了後から取り組みはじめ、ポスターや図書館だより、図書委員による生徒や親への呼びかけ、古本集め、交換券との引き換えなどをクラスごとにやっていき、その結果、約800冊余りの古本が集まり、交換会当日は保護者も交えて大盛況のうちに600冊

以上の古本が交換または一冊10円の均一価格で販売され、無事に終わることができました。

e 特設書架の設置

学校図書館では基本的には日本十進分類法による分類を行い、それをもとに配架していますが一部の図書は臨時に、あるいは恒常的に特別に配架しています。本校では部活動の本や料理、楽譜類などについては、関係する本を分類や配架法を無視して種目ごとにまとめて一か所においています。この方が利用者にとっても便利で利用しやすいと思うからです。また、クリスマスや雛祭り、七夕などの季節ごとに関連本を集めて特設書架をついたり、教科や領域ごとに調べ学習用の臨時の書架を設けたり、図書館独自で『読書の苦手なあなたのための本』コーナーや『朝の10分間読書に最適な本』コーナーの設置など、常に利用者を飽きさせない変化のある書架の工夫もしています。

4 学校図書館選書、廃棄と環境

選書は学校図書館にとっては最も大切な仕事のひとつです。選書ひとつで利用者の増減が大幅にあるからです。子どもたちの今の文化を理解し、かつ、出版情報にいつも目を向け、定期的に書店巡りをし、棚を見てまわる。そして、時には本の展示会や他の図書館にも行き情報を手に入れる。書店が持つてくるわずかな目録や現物、巡回販売の特定の出版社の本だけに頼らない幅広い選書をいつも心がけることが大切です。それと実際に本を買う場合も一冊ずつ丁寧に選ぶことです。容易にセット物や全集を選ばないことです。また、年に数回のまとめ買いではなく、必要な本を必要なときに買う、いつも図書館には新しい魅力的な本がある状況を作り出すことも大切です。また、生徒との会話の中から、今、彼らがどんなことに興味を持っているのかを聞き出し、その関連本などをそろえていくことも大切です。読書好きの図書委員や先生から聞き出す情報も非常に役立ちます。

選書とともに大切なのは図書の廃棄です。いくら新刊を受け入れても、古くてほとんど利用されない大量の図書があると、新刊はその中に埋もれてしまつてほとんど利用されなくなってしまう。古くなってほとんど利用者のいない図書は廃棄するか、書庫や他の場所で管理するようにします。小説類は、

作家も読者とともに歳を取っていきます。若い限られた読者の利用することの多い学校図書館では、このことに特に気をつけていかなければなりません。

選書や廃棄の蔵書管理がいくらよくても、図書館の位置が不便なところにあり、室内が暗く、堅苦しく、利用時間も限られていては利用者は利用しにくいものです。図書館は雰囲気明るく開放的で、いつでも利用できる場所でなければなりません。そして、知的好奇心を引き起こすような書架展示や掲示物や適度にあるところでなければなりません。書架の高さや材質、色調、いすや机の形や使いやすさ、壁やカーテンの色なども大切なものです。

5 おわりに

ここ2、3年、読書や学校図書館の重要性が改めて見直されつつあります。学校図書館法も大きな問題を残しながらも改正されました。しかし、今まで

30年以上にわたって軽視され、雑務扱いされてきたツケはあまりにも大きすぎます。

学校図書館の仕事は資料を知り、利用者を知ることです。そのためには努力をおしまないことです。やればやるほど仕事は増えていきます。新しい資料は日々出版されています。これらを全部把握することは不可能です。しかし、何もしなければすぐに取り残されてしまいます。また、利用者も次々に疑問や欲求を持って学校図書館へやってきます。この両者を結び付け、巡り合わせるのが学校図書館の仕事です。巡り合いがなければ利用者は去っていきます。期待もされなくなります。今ある学校図書館の大部分は誰からも期待されず、見放されてしまっています。これを利用者に期待され、頼りにされる学校図書館にするために、学校図書館に働くものは日々努力しているのです。

読書 図書館向きイラスト・カットの募集

年 月 氏名

A B

C D

- ・提出作品は4作品まで書くことができます。
- ・黒色以外の筆記用具は使用できません。カラーは不可
- ・パソコンやスクリーンなども使用できます。カラーは不可
- ・6cm×8cmの大きさの中に描いてください。枠は6cm×8cmより少し大きく作っていますから枠いっぱいには作らないこと
- ・他人の書いたものは絶対に使用しないでください。著作権法違反になります。

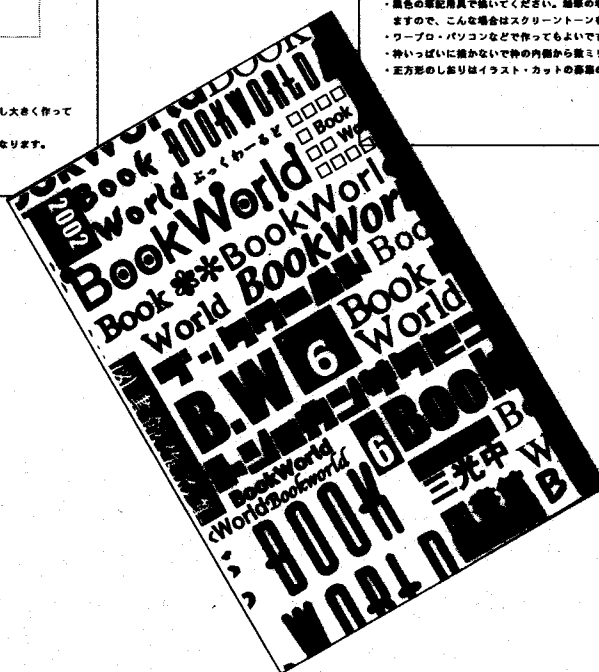
三光中学校図書館

年 月 氏名

A B C

※採選基準とお願い

- ・黒色の筆記用具で描いてください。鉛筆の場合は黒くともコピーに出ないことがありますので、こんな場合はスクリーンを使用するか、書き方を工夫してください
- ・ワープロ・パソコンなどで作ってもよいです。
- ・枠いっぱいには描かないで枠の内側から盛込み程度で描いてください。
- ・正方形のしおりはイラスト・カットの募集の用紙と共通です。



《卒業生からの便り》

図書館活動から得たもの

元三光中学校図書委員会部長 井上 朋子

中学時代の思い出と言われれば、私はまず「学校図書館活動」を挙げます。私は三年間ほぼ毎日図書館に通い詰め、図書委員としても活動しました。活動は本の整理に始まり、貸出し業務、新刊の準備、掲示物作成、図書館だよりの作成など、多岐にわたりました。もともと本は嫌いではありませんでしたが、この中学時代の経験によって本が好きになったことは確かです。しかし、これらの活動によって私が得たものとは何だったのか。今まで意識することがなかったことですが、改めて考えてみると以下のようなことが考えられます。

- 1, さまざまな分野への興味
- 2, 常に創意工夫をする向上心
- 3, 計画を実行していく力

まず1の「さまざまな分野への興味」。これは私が図書館活動の中で最も恩恵を受けた部分ではないでしょうか。普通、いくら読書が好きだといっても興味の無い分野まで手を伸ばそうと思ふことはあまりありません。しかし、蔵書整理や本の紹介をするにはさまざまな分野の本を扱わなければなりません。蔵書整理でちらっと見かけた本や、紹介文

を書くために読んだ本がおもしろそうで、今まで知らなかった分野や世界に興味を覚えることができ、また、そうしてさまざまな本に触れることで、他の分野への関心も抵抗なく広がっていきました。

次に2つ目の「常に創意工夫をする向上心」ですが、これは、図書館活動の重要なテーマの一つでもある、「いかにして本に興味をもってもらおうか」ということを軸に、掲示物や図書館だよりの作成をするうちに自然と身につけてきたものです。「現状に満足せずもっと良い方法を」。この考えは今までもさまざまな場面で働いてくれます。

そして3つ目の「計画を実行していく力」は図書館に関する多くの仕事をどの順序で、どうやって、どのくらいの事をやるのか計画を立てているうちに得ることができたものですが、一つ一つの計画を実行できたことで自信がつき、1のさまざまな分野への好奇心とともに、自分から物事にアプローチしていく能動的な姿勢へと繋がっていきました。

以上、思い付くままに挙げていきましたが、私がこれらの活動を続けていられたのは偏に「楽しかったから」ということに他なりません。これは図書館活動に限りませんが、楽しかったからこそ得たものも大きいのだと思います。楽しい読書を推進する、楽しい図書館活動が続いていくことを願ってやみません。

(九州大学21世紀プログラム3期生)

